

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1928 号

Efficacy and acceptability of one liter of polyethylene glycol with ascorbic acid vs. two liters of polyethylene glycol plus mosapride and sennoside for colonoscopy preparation

(モサプリドおよびセンノサイド併用による 1L アスコルビン酸含有ポリエチレングリコール電解質製剤と 2L ポリエチレングリコール電解質製剤を用いた腸管洗浄有効性及び患者受容性の比較検討)

亀井 将人 (かめい まさと)

博士 (医学)

論文内容の要旨

大腸内視鏡検査の前処置は、適切な検査結果を得るために重要な要因の一つである。検査時の前処置にはポリエチレングリコール (PEG) が広く使用されてきた。しかし、その味や一般的に 2-4L もの内服量を理由として一部の患者からの受容性が低いことが指摘されていた。そのため近年はアスコルビン酸類および高濃度 PEG を含む経口腸管洗浄液 (PEG-Asc) が用いられてきているが、内服方法が複雑であることは改善課題の一つであった。本研究の目的は、モサプリドおよびセンノサイド併用による 1L PEG-Asc と 2LPEG を用いた腸管洗浄の有効性及び患者受容性の比較検討を行うことである。本研究は後向き単施設非劣勢試験であり、2011 年 8 月から 2014 年 7 月までに当院にて外来での大腸内視鏡検査が予定された患者を対象とした。前処置薬の患者への割り振りは検査時期によって決定された。患者は検査前日就寝時に 5mg のモサプリドと 24mg のセンノサイドを内服し、検査当日 4 時間前より PEG または PEG-Asc の内服を開始し検査を施行した。PEG 群は 1L/h の速度で合計 2L の洗浄液を内服し、PEG-Asc 群では 1L/h の速度で合計 1L の洗浄液を内服した後に 0.5L の水を内服した。洗浄効果は、Aronchick scale を用いて内視鏡施行医と盲検化医師の両者が評価を行った。また患者受容性や、腺腫発見率 (ADR) の比較、潰瘍性大腸炎患者に対する使用の安全性の評価をセカンダリーエンドポイントとした。盲腸から上行結腸における洗浄効果は、PEG-Asc 群の方が有意に高く、それ以外の部位の両群における洗浄効果に有意差は認めなかった。ADR も両群における有意差は認めなかった。患者受容性アンケートでは、味を含む飲み易さでは PEG-Asc の方が良いという結果であり、量についても PEG-Asc の方が飲みやすいとする意見が有意に多かった。さらに、次回検査時の内服希望も PEG-Asc が有意に高かった。また、両群において処置を有する有害事象は認めなかった。潰瘍性大腸炎患者に対する使用でも、両群において明らかに前処置に起因した症状増悪は認めなかった。本検討は前日の検査食を用いることなく 1L の PEG-Asc 内服による検査前処置の評価を行った初めての研究である。PEG の味や内服量等によって検査を敬遠していた患者にとって、1L の PEG-Asc 内服による大腸内視鏡検査は受容性の改善につながるものと思われる。